

## <設立趣意書>

平成27年9月8日

### 「楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を！市民会議」の設立について

この市民会議に参加する音楽団体は、東日本大震災直後から音楽による復興支援に取り組んできました。こうした活動の積み重ねに対して、音楽が果たすべき新たな社会的役割を開拓していると、国内外から大きな賛辞と高い評価が寄せられています。

そして私たちは、音楽の力による「心の復興」をさらに実りあるものにするには、震災後多くの方々がその必要性を指摘している「国内外の音楽の力を集めることのできる音楽ホール」の存在こそが、大きな鍵になると考えるに至りました。

広く被災地域の力を結集して建設する音楽ホールは、被災地域のみならず楽都・仙台の復興のシンボルとしてもふさわしいものと確信しています。これが、クラシック等に優れた音楽環境を有する2000席規模の音楽ホールを仙台市中心部に建設することを提案する所以です。国内の主要な都市にはすでに2000席規模の音楽ホールが整備されていることも事実です。

音楽の力による復興センター・東北が経済団体等と2012年1月と2013年4月に開催したシンポジウムでは、仙台市中心部に2000席規模の音楽ホールを建設することの重要性が強く指摘されました。

さらに2014年7月には、仙台経済同友会など経済団体が発起人となり、音楽ホール建設のため3年間で総額10億円を目標とする「音楽ホール建設基金」が発足しました。

今年2月、仙台市は、平成27年度施政方針のなかで「震災を通じて、改めて音楽の力の素晴らしさを実感した」と述べ、「音楽の力による復興を推し進め、楽都仙台の魅力さをさらに高めていくためにも、音楽ホールは是非とも必要な施設」と表明し、平成27年度当初予算に、建設の具体的な検討に向けた立地や整備手法などの調査費を計上しました。

しかし、音楽ホール建設には多額の建設費用を要することなど克服すべき多くの課題があることも事実です。そこで、これまで音楽ホールの必要性を訴えてきた音楽関係者が集い、音楽ホール建設への輪をさらに拡げるべく「楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を！市民会議」を結成することとしました。

今後、復興に「音楽の力」を役立てるため、そして子どもたちに豊かな音楽文化を伝えるため、音楽団体を中心に、演奏者、音楽の力を大切にす県民・市民が結集し、関係団体との密接な連携のもと、新たな音楽ホールの実現を強く訴えるとともに、この取り組みに対する県民・市民の幅広いご支持をいただくための様々な活動を展開してまいります。

皆さまの力強いご賛同と確かなご支援をお願いいたします。

平成27年9月8日

呼びかけ人	一般社団法人 仙台オペラ協会	芸術監督兼演奏部会代表	佐藤淳一
	公益財団法人 音楽の力による復興センター・東北	代表理事	大滝精一
		代表理事	大澤隆夫
	宮城県合唱連盟	理事長	今井邦男
	宮城県吹奏楽連盟	会長兼理事長	三塚尚可

(五十音順)

(参考)

音楽ホールのコンセプトは以下の通りです。

(1) 規模・立地について

将来にわたって国内外の主要演奏会等を可能にするため、2000席規模の音楽ホールを実現し、安定的な運営を行います。立地は多くの来場者がアクセスしやすいことを前提に、仙台都市圏のみならず東北地方全体からのアクセスに応えるため、市内中心部に建設します。これは演奏者側のニーズも同様です。

(2) まちづくり・経済活性化

音楽ホールをまちづくりと連動する地域の大きな「魅力」と位置づけ、周辺地域と連動して地域経済活性化の契機となるよう充実した運営・プログラムの実現、求心力の高いホットポイントを構築します。

(3) 楽都・大震災メモリアル

楽都としての音楽資源の蓄積、大震災以降の復興に果たした音楽の新たな役割等、仙台の深く豊かな文化風土を、世界に向けて発信する音楽ホールを目指します。また復興の未来を担う子供たちと音楽を、さらに強く結びつけるため、楽都事業展開の拠点としての役割も担います。